

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきざいだんほうじん うめわかか		
	制作団体名	公益財団法人梅若会		
	代表者職・氏名	梅若善政(実桜雪)		団体ウェブサイトURL
				https://umewaka.org/
	制作団体所在地	〒163-0003	最寄駅(バス停)	JR東中野駅
		東京都中野区東中野2-6-14		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	昭和36年 10月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		代表理事:梅若善政(芸名 桜雪) 常務理事:梅若靖記(芸名 長左衛門) 監事:宮内威 理事 10 名 評議員 10 名	団体構成員:個人(能楽師):正会員43名 主な構成員:梅若善政(芸名 桜雪) 加入条件:能楽の所定の免状取得および代表理事の承認	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	事務局長 山本 祥一
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	事務局長 山本 祥一
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		umewakakai.piif@gmail.com		0333637748

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>1. 歴史:猿楽の発祥の地とも言われている丹波地方において、平安時代の末期より鎌倉時代の初期に職業的猿楽師の団体があり、その中で丹波猿楽梅若の名が文献に出てきたのは、応永23年(1416年)3月9日の条に【仙洞に猿楽あり梅若仕る】と看聞御記に初めて出てきます。梅若家の系譜は奈良朝の橘諸兄に始まり、現梅若家当主四世梅若実(本名:善政)は橘諸兄から計算すると五十六代となります。四世梅若実の曾祖父である初代梅若実(1828～1909)は、明治維新で幕府や大名家の保護を失った能の再興に尽力し、現在の能楽界の礎を築きました。昭和36年、五十五世梅若六郎が現在の中野区東中野に我が国唯一の能楽教習の場として梅若能楽学院を開校、同時に財団法人の設立をしました。設立当初より自主公演の定期開催と国内外の能楽公演等を中心に能楽普及振興のため精力的に活動しています。</p> <p>2. 設立目的:当法人は、我が国固有の伝統芸能である能楽の普及振興及び人材育成を図るため、能楽の公演及び伎芸の伝承・継承と法人が所有する能舞台(梅若能楽学院会館)の貸与を広く一般へ行い、もって我が国芸術文化の向上発展に寄与することを目的としています。</p> <p>3. 略歴:昭和36年(1961年)8月5日梅若能楽学院会館竣工披露能開催・同年8月6日梅若能楽学院開校式、初代校長岩倉具栄・同年10月25日財団法人認可・平成26年(2014年)4月公益財団法人移行認定</p>	
	学校等における公演実績	<p>1. 令和3年度:文化芸術による子供育成総合事業 狂言「柿山伏」・能「殺生石」上演 ・福島県会津美里町立宮川小学校・福島県伊達市立伊達東小学校・福島県二本松市立油井小学校・埼玉県蕨市立第二中学校・栃木県立佐野高等学校附属中学校・埼玉県加須市立大利根中学校(2回公演)・栃木県那須塩原市立箒根中学校・埼玉県朝霞市立朝霞第四小学校・埼玉県幸手市立行幸小学校・福島県田村市立船引中学校・福島県いわき市立汐見が丘小学校・福島県伊達市立伊達東小学校 以上12校</p> <p>2. 令和2年度:文化芸術による子供の育成事業において狂言「柿山伏」・能「殺生石」上演(コロナウイルス感染症の影響により1校のみ開催) ・神奈川県大和市立下福田中学校</p> <p>3. 令和元年度:文化芸術による子供の育成事業において狂言「柿山伏」・能「殺生石」上演 ・三重県名張市立美旗小学校・三重県松阪市立大河内小学校・滋賀県湖南市立菩提寺小学校・滋賀県甲賀市立伴谷小学校・和歌山県橋本市立境原小学校・和歌山県紀の川市立調月小学校・和歌山県海南市立黒江小学校・和歌山県有田市立保田小学校・和歌山県上富田町立上富田中学校・奈良県香芝市立鎌田小学校・奈良県大淀町立大淀中学校・奈良県葛城市立新庄中学校 以上12校</p> <p>4. 令和6年度:文化芸術による子供の育成事業において狂言「柿山伏」・能「殺生石」上演 築上町立葛城小学校、熊本市立御幸小学校、人吉市立人吉東小学校、人吉市立人吉西小学校、嬉野市立嬉野中学校、佐世保市立宇久中学校、熊本市立五霊中学校</p> <p>5. その他:学生能楽鑑賞会:福岡県下の4～5校に実施。(昭和58年より毎年継続して行われている高校生対象のレクチャー、鑑賞会)①生徒参加による能楽体験教室 ②狂言「柿山伏」、半能「土蜘蛛」実演・IES留学生のための能体験英語ワークショップ</p>	
	特別支援学校等における公演実績	特にごさいません	

参考資料	申請する演目のWEB公開資料		
	※公開資料有の場合URL		https://dtbn.jp/sycVZACe
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード		<div>ID:</div> <div>PW:</div>

一般区分・特別エリア区分共通

No.2(実演芸術)

別添

あり






【公演団体名

公益財団法人梅若会

】

本公演・ワークショップの内容

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	「伝統は今を生きる 能楽『船弁慶』で体感する ー デジタル時代に出会うアナログの力 ー」			
企画のねらい	本企画は、能楽『船弁慶』を学校巡回公演として上演し、児童生徒に「伝統は今を生きる」ことを体感してもらうことを目的とします。能楽は700年以上続く古典芸能でありながら、現代においても身体と声、音楽と舞台空間によって観客の想像力を喚起する「アナログメディア」です。デジタル環境に囲まれて育つ子どもたちにとって、五感をフルに活用して楽しむ機会が減少しています。体全体を使い、想像力・集中力・感受性を刺激するこの体験は教育的に極めて意義深いものだと考えます。 また『船弁慶』は義経や弁慶といった歴史的人物を題材とし、「平家物語」や「壇ノ浦の戦い」等国語・社会科教育との連携が容易であり、学校教育の中で効果的な学びを促すことができます。			
演目概要・演目選択理由	演目概要:『船弁慶』は、源義経とその家臣・武蔵坊弁慶が都落ちの途上、船で西海へ向かう場面を描いた能です。前半では静御前の哀切な舞が描かれ、後半では平知盛の亡霊が海上に現れ、船上で激しい戦いが繰り広げられます。能楽特有の静と動のコントラスト、音楽と舞による荒海の表現、そして義経・弁慶・静御前という歴史的人物の人間模様が展開される名作です。 選択理由:次の視点1、児童生徒にとって理解しやすい題材2、能楽の魅力を総合的に体感できる作品3、想像力を育む「アナログ表現」4、文化的価値の提示から選択しました。 『船弁慶』は、源義経・弁慶・静御前といった歴史的人物を題材にし、学校教育で親しまれる平家物語とも深く関わるため、児童生徒に理解されやすい作品です。 前半の静御前の舞と後半の知盛の怨霊との戦いは、能楽の「静」と「動」を体感でき、面・装束・囃子・舞といった総合芸術性を一度に示すことができます。 また、舞台装置や映像に頼らず声や所作で海や嵐を表現する本作は、デジタル時代の子どもたちに「アナログの力」と想像力の重要性を伝える格好の題材であり、上演回数も多く、世界無形文化遺産である能楽の魅力を学校教育現場で紹介するのに最も適した演目として選択しました。			
児童・生徒の参加または体験の形態	ワークショップでは、能楽の簡単な歴史や基礎のお話の後、児童生徒が能楽に直接触れる体験を行います。挨拶にはじまり、短い一節を謡ってみる「謡体験」や、弁慶・静御前の基本的な所作を体験する「所作体験」を通じて、能の声や身体表現の特徴を学びます。さらに能面・装束を間近で紹介し、役柄や感情の表現方法について理解を深めます。ワークショップの最後にも挨拶をして終わります。質疑応答の時間を設けることで、児童生徒が出演者に直接質問し、能楽を身近に感じる機会を持ちます。 本公演では出演者によるレクチャーを行い、『船弁慶』のあらすじや人物、能楽特有の表現方法について再度解説します。その後には公演を鑑賞することで、事前に体験・学習した内容が舞台上でどのように生かされているかを確認でき、能楽の魅力をより深く体感することができます。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人数目安	特に人数目安はありません
			鑑賞人数目安	特に人数目安はありません
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	演目:能「船弁慶」 原作観世小次郎信光(かんぜ こじろう のぶみつ)(1435頃～1516頃)による作品。 世阿弥が大成した能をさらに広め、多くの人気曲を手がけた作者として知られています。 小中学生にとって長時間の舞台鑑賞は集中力が持続しにくいいため、物語の要点を凝縮した短縮版とすることで、最後まで興味を持って能楽を体感できるようにします。			
	公演時間	100	分	
出演者	シテ方:★梅若長左衛門・★梅若 紀彰(芸術院賞受賞)・★角当 行雄・★松山 隆雄・★山崎 正道・★梅若 基徳・★小田切康陽・★角当 直隆・★山中 近晶・★松山 隆之・川口 晃平・レイヤー陽子・小田切亮磨・山崎 友正・鷹尾 雄紀・梅若景英・土田英貴(17名を予定) 狂言方:山本東次郎家 交渉中(2名) ワキ方:4名 交渉中 囃子方:4名 交渉中 総合監修:☆梅若 桜雪 ☆重要無形文化財各個認定(人間国宝)保持/★重要無形文化財総合認定保持者 公演の出演者は人間国宝梅若 実に指導を受けた当法人所属のシテ方能楽師、また経験豊富な狂言方、囃子方、いずれも能楽の伎芸が高度なレベルに達した者で構成します。			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の	梅若紀彰:55世梅若六郎の孫。四世梅若実桜雪に師事。令和7年芸術院賞受賞。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者:	27	名	運搬 積載量: 1.25 t 車 長: 5 m 台 数: 1 台
	スタッフ:	7	名	
	合 計:	34	名	

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間		2	時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
	11:00	2h		2h	10m	1h	16時00分
※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月
	15日		15日		15日		20日
	10月		11月		12月		1月
	20日		20日		20日		10日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		135日
本公演・ワーク ショップの内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>上・本公演のWSの様子。プロの実演を体感しながら、能の各パートの役割等の話、演目の話等をすすめている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>左・本公演の様子。子供たちの座っているギリギリのラインで演じるため、その迫力をリアルに体感することができるようになっている。生の声の力強さや、普段見る事の出来ない面の詳細な顔などを感じられる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div> <p>左・舞台設置の様子。通常は横型に設置し、幕を体育館の2Fなどから吊るすが、自立型でも舞台を制作することは可能。</p> <p>左の舞台設置のパターンは自立型でつくっている。</p> </div> </div>						
	<p>公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真)</p>						
	<p>※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡</p>						
著作権、上演権等 の許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続の要否		該当なし		該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名			許諾確認状況		

別添

なし

【公演団体名

公益財団法人梅若会

】

ワークショップの内容

ワークショップのねらい

能楽は初めて接する児童生徒が多く、その独特の表現形式(謡・所作・面・装束・囃子など)は事前の説明や体験がなければ理解が難しい場合があります。ワークショップによって、舞台上に登場する表現方法をあらかじめ知ることで、公演本番での理解と集中度を高めます。

また、面や装束を間近に見て「表情のない面がどう感情を表すのか」「衣装の色や形が役柄にどう結びつくのか」を考えることは、観察力と想像力を育てます。これは、デジタル時代に不足しがちな「自ら想像して補う力」を養う場として有効だと考えています。

児童・生徒の参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

少人数でも大人数でも対応可能です

ワークショップ実施形態及び内容

本公演を楽しんでもらうために、能楽の基礎的なWSを座学と体験ですすめています。
ワークショップ実施形態(80分)
1. 導入(10分)
能楽の歴史と『船弁慶』の物語を簡潔に紹介
能楽は大道具や映像を使わず「声・舞・音」で世界を描くことを伝え、想像力を働かせる準備をする等
2. 能楽の構成と役割(10分)
シテ(主役)、ワキ、囃子方、地謡などの役割を解説
それぞれがどのように舞台を支えているかを知ること、能楽を総合芸術として理解
3. 面と装束の体験的理解(15分)
能面・装束を間近で見せる。
「無表情の面がどう感情を表すか」「色や模様が役柄を示すこと」について児童生徒に問いかけ、考えてもらおう。
可能であれば一部を試着・手に持つ、かける体験を行う(生徒代表)
4. 謡体験(15分)
短い一節(例:「知盛の出現」部分など)を全員で謡ってみる
声の出し方・リズムを指導し、能独特の発声法を体感
5. 所作体験(15分)
実際の演目の一部を使い、扇の使い方、構え方、歩き方を体験。
6. 想像力の学び+質疑応答(15分)
その他
「もし舞台上に波や嵐を出すならどう表現するか」などを考えてもらい、能の表現方法と結びつける
参加可能人数:全校生徒対象(最少人数無し〜500名。ただし体験人数は総生徒数によっては上限を設けさせていただきます。)
10. 所要時間:80分前後
※上記はワークショップの一例となります。

学校の希望にそって内容・時間をカスタマイズすることも可能ですが、上記は全体通じての基本となる内容です。

その他ワークショップに関する特記事項等

一般的に敷居が高いと思われがちな能楽ですが、本事業ではまずワークショップを通して謡いや所作、能面・能装束に実際に触れることで、児童生徒にとって能を身近なものとして感じられる機会を提供します。体験を通じて「古典芸能は難しい」という漠然としたイメージを払拭し、能楽が“今を生きる表現”であることを実感させることを狙いとしています。

また、本公演『船弁慶』では、静御前の舞と知盛の怨霊の出現という劇的な展開を通して、能楽の「静」と「動」の対比を体感します。大道具や映像を使わず、声・囃子・舞によって嵐や海の情景を描く能の表現に触れることは、デジタル世代の子どもたちにとって想像力を働かせる貴重な機会となります。

さらに、歴史的な観点からは、義経・弁慶という学校教育でも親しまれる題材を扱うことで、国語・社会・音楽・総合学習に広く対応できる学びの場を創出します。能楽が世界文化遺産として海外に誇れる日本の文化であることを知ることは、子どもたちの文化的誇りを育み、未来への継承につながると考えています。

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

なし

公益財団法人梅若会

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまう。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくこととなります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

(必須)

公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。

条件なし

条件なし

A以上

A以上

6 m

2 m

条件が合えば可

m

遮光要件なし

緞帳の要否

有無のみ確認したい

使用しない

なし

条件なし

虛相談

トラック横づけ不可の場合の
搬入対応可能距離

300 m以內

ハイエース

台数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

1 台

5 m

備考

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

(任意)

学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。

要

その他提出が必要な資料
(搬入間口や搬入経路の写真の提出等)

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
本公演						
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	講演決定後備品の使用についてのご相談をさせていただければと思います	
	2		
	3		

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

会場簡易図面

體育館
舞台

舞台袖

舞台袖

樂屋

パネル

体育館
フロア

鑑賞位置

鑲牙位置

變異位置

設圖舞臺

6 m 設置

問口

後方

トラック

前方

フロア使用時

別添

なし

【公演団体名

公益財団法人梅若会

】

【本事業を通じて実現したいこと】

当法人は、世界最古の現存する音楽劇・仮面劇であり、日本の多様な文化要素を内包する能楽の特性を活かし、本事業を通じて次世代を担う子どもたちの感性を育むことを目指します。能楽教室や本公演の鑑賞を通じ、日本人としての立ち居振る舞いや伝統の「心」に触れることは、自国文化への理解を深め、将来国際社会において自国の文化を語り、他者と交流を図る素地となります。

また、能楽は「余白」を重んじ、観る者の想像力を喚起する芸術です。児童生徒が自らの想像した世界を語り合う体験は、多様な価値観を尊重し、他者とのコミュニケーションや相互理解を育む機会となります。

さらに、本物の芸術との出会いは人生を豊かにし、将来の創造や自己表現の源泉となります。特に若い時期の最初の出会いは重要であり、能楽を通じた本事業が、児童生徒にとって日本人としての伝統の「心」に触れる貴重な体験となるよう取り組んでまいります。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

タイムマネジメントの工夫

授業時間に合わせて80分を基本とし、導入・体験・解説・鑑賞を適切に配分する。
→ これにより、児童生徒が無理なく集中でき、「本物の芸術を楽しみながら理解する」体験を実現する。

安全面への配慮

能面・装束の取り扱いや舞台設営は専門スタッフの立会いのもと行い、児童生徒が安心して参加できる環境を整える。
→ 安全性の確保は「本物との出会いを安心して体感できる」環境づくりにつながり、能楽を身近に感じられる。

事前準備と学校との綿密な連携

会場の環境確認、使用機材の事前調整、児童生徒数に応じた進行設計を行う。
→ これにより「敷居の高い古典芸能を学校現場に適合させる」理念が実現し、誰もがアクセスできる機会となる。

スタッフ体制と役割分担

進行補助・児童生徒の誘導・資料配布などをスタッフと学校教員で分担する。
→ 「芸術家と教育現場が協力して子どもの感性を育てる」という事を具体化する。

教材・資料の提供

事前にワークシートを配布し、終了後に振り返り資料を提供する。
→ 「体験を単発で終わらせず、学習として定着させる」という教育理念を支える。

評価とフィードバック

終了後に学校と振り返りを行い、改善点を次年度に反映させる。
→ 「継続的な文化継承と教育の質向上」に資する取り組みとなる。

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

本事業への応募理由等

【学校との連絡調整について】

本事業の実施にあたっては、学校の先生方に過度な負担がかからないよう配慮します。出演者側で進行・準備・運営を主体的に担い、先生方には必要最小限のご協力のみをお願いする体制をとります。一方で、先生方が児童生徒の安全や授業との関連性に不安を感じないよう、事前に綿密な情報共有を行います。具体的には、事前に全体的な流れおよび、当日の流れ・役割分担・安全管理について詳細資料を提示し、先生の不安を解消する
児童生徒向けの学習プリントを提供し、授業に無理なく取り入れられる形にする
先生からの質問や要望に柔軟に応え、学校ごとの事情に合わせたプログラム調整を行う
これにより、先生方の負担を軽減しつつ安心感を確保し、教育現場との信頼関係を築くことを目指します。

事業を適切かつ
円滑に実施するための
工夫

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

共通: 初めて能に触れる児童生徒が多いことを前提に、専門的な要素は噛み砕いて説明する。面や装束の体験はスタッフが補助し、安全に配慮して実施する。学校側の負担を増やさないう、授業時間に収まる構成を心がける。

小学校

難しい専門用語は避け、やさしい言葉や具体的な表現で解説する。
所作体験は歩き方や扇の使い方など、楽しみながらできる簡単な動きを中心に構成する。
集中力が持続しにくい、活動を細かく区切り、テンポよく進行する。
公演のあらすじや登場人物を事前にわかりやすく紹介し、舞台に入りやすくする。

中学校

能楽の役割分担(シテ・ワキ・囃子・地謡)や舞台の構造を解説し、論理的理解を促す。
謡や所作体験では、それがどの場面にあたるのかを説明し、物語との関連性を理解させる。
歴史的背景(源義経・壇ノ浦の戦い)を紹介し、社会科や国語の学習とのつながりを意識させる。
現代演劇や映像文化との比較を提示し、多角的に能楽を捉える視点を与える。
質疑応答やディスカッションを設け、生徒が主体的に発言し考える機会を作る。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

本公演後には、児童生徒が学びを整理できるよう「鑑賞カード」を配布します。カードには「心に残った場面」「驚いたこと」「今日学んだこと」など簡単な記入欄を設け、数分で記入できる形式とします。先生方の負担を増やさずに活用できるフォーマットをこちらで用意し、児童生徒の感想を記録・共有することで、学びの定着と継続的な振り返りを可能とします。なお、これらの記録については、先生から許可をいただいた場合のみ資料として収集し、次年度以降の参考とする予定です。

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人梅若会 】
メイン演者プロフィール		<p>梅若 紀彰(うめわか きしょう) シテ方観世流能楽師。 1956年9月18日、故55世 梅若六郎(うめわかろくろう(芸術院会員))の孫として生まれる。 祖父ならびに現56世 梅若実桜雪(うめわかみのるろうせつ(人間国宝))に師事。梅若実桜雪の甥。 1991年 梅若雅俊(うめわかまさとし)の養子となる。 2010年12月に晋矢(しんや)改め二代紀彰(きしょう)を襲名する。 2024年度 日本芸術院賞受賞</p> <p>1960年 初舞台「鞍馬天狗」花見、初舞台 1976年 「猩々乱」 1977年 「石 橋」 1982年 梅栄会を創立 1983年 「翁」 1984年 「道成寺」 1986年 「望 月」</p> <p>古典はもとより新作能にも積極的に取り組み、また海外公演にも数多く参加するなど、幅広く活躍している。600年の歴史を誇る梅若家において、現当主梅若実桜雪と共に中心をなす。 重要無形文化財総合指定保持者、公益財団法人梅若会評議員。梅栄会(ばいえいかい)主宰。</p>